

募集要項

募集対象

認知症の人がいきいきと暮らせるための活動を行っている団体やグループなどの取り組みを募集します。自治体や法人の活動から、友人・知人で作るグループの活動まで、規模や活動のカタチは問いません。

選考基準

- ① 共生社会に向けた先駆性、オリジナリティー
- ② 認知症当事者が望む活動を本人が共に進めているか
- ③ 活動が多様な人々と共に進み、地域に広がっているか
- ④ 他の地域への応用可能性

応募方法

以下の内容を記載して、お送りください。書式は問いません。ホームページからも応募できます。

【応募者について】

- ①お名前、②所属、③住所、④電話番号、⑤メールアドレス

【応募概要】

- ①団体（または活動）名称、②代表者名、③所在地、④連絡先、⑤ホームページURL、⑥活動を始めた年、⑦主な活動地域、⑧活動PR、⑨認知症の当事者の声をもとに当事者と一緒にどのように活動しているか（活動を通じて当事者にどのような変化があったか、当事者の生の声も教えてください）、⑩活動の広がり（当事者の参画の広がり、地域や他分野とのつながりの広がりなどを具体的に）

【賞罰】

表彰歴の有無 ※今回応募の活動に対する受賞（有りの場合、受賞した年度、賞名、賞の主催者をお書きください）

処罰歴・その他特記事項の有無（有りの場合、年月、事由をお書きください）

※その他、活動の内容が分かる資料（リーフレットや写真、動画等）があれば添付してください。

※応募内容について、より詳しく伺うため、お電話などで確認を取らせていただくことがあります。

※結果は「応募者」に通知いたします。

【送り先】

〒150-0041
東京都渋谷区神南 1-4-1
NHK厚生文化事業団「ともに生きるまち大賞」係

NHK厚生文化事業団ホームページ

<https://www.npwo.or.jp>

（応募用紙サンプルをダウンロードすることもできます）



結果発表

結果は10月下旬頃、申請いただいたみなさまに郵送します。

表彰式

11月下旬～12月中旬頃行う予定です。コロナウイルスの感染状況により、東京に受賞団体をお招きして開催するか、オンラインで開催するかを判断します。

お問い合わせ

NHK厚生文化事業団 TEL | 03-3476-5955（平日10:00～17:00）

選考委員

永田 久美子（認知症介護研究・研修東京センター 研究部長）
延命 政之（弁護士）
鈴木 森夫（認知症の人と家族の会 代表理事）

丹野 智文（おれんじドア代表）
町永 俊雄（福祉ジャーナリスト）

ほか

第6回



認知症とともに 生きるまち大賞



コロナ禍でも変わらず続けている取り組み、
コロナ禍だからこそ新たに始めた取り組み・・・認知症とともに
「どうすれば自分らしく暮らし続けられるか」を考え、
実践している活動を募集します！

受賞団体の
いくつかの活動は、
NHKの番組で紹介する
予定です。

募集期間

2022年 5月2日～8月19日（必着）

主催 | NHK、NHK厚生文化事業団

受賞団体紹介

昨年度、本賞を受賞した4団体の活動を紹介します。



これまでの受賞団体を
まとめて紹介しています。

<https://www.npwo.or.jp/tomonikirumachi/>



地域のでよみがえった畑 ヒロさんの畑 認知症があっても我らアクティブシニア

茨城・ひたちなか市

ヒロさんが管理していた畑には、地域の子供たちや認知症のある人たちが集まり、多様なつながりが生まれた。ヒロさんの死後も畑は存続し、野菜を子ども食堂へ寄付したり、地域お助け隊を結成したりと地域住民の活躍の場となっている。



ここが
POINT!

ひとりの高齢者の遺志を誰もが自分のことと引き受けて、地域福祉の核として作り上げました。地域再生の姿として、手作りの温もりがあるところがよいですね。

自宅ガレージを開放し、地域活動の新たな拠点に チーム上京!

京都市上京区

「身近な地域の中で人とつながり、安心して出かけられる場所がほしい」という認知症当事者の思いを実現するため、地域住民有志と福祉専門職が話し合い、自宅ガレージを地域に開放することに。カフェや子どもの遊び場など地域活動の拠点となっている。



ここが
POINT!

ひとりの当事者の思いを中心にして語り合うことから始まったまちづくり。どこでも誰でも始められるような活動のため、各地から多くの関心を寄せられています。

高尾山 登山が地域の人たちとの交流の場に 彩星の会

東京・新宿区

コロナ禍に外出の機会を確保するため、月2回のペースで高尾山登山を実施。認知症の本人、家族だけでなく、地域の人なども加わって登山することで、交流の場となっている。本人の自信となり、家族にとっては本人の笑顔が活力となる。



ここが
POINT!

認知症であってもなくても、ただ高尾山に登ることに多くの人々が参加し、自然発生的に豊かなつながりが生まれました。地域福祉のあり方が全て込められているようです。

認知症になっても安心して暮らせる地域をめざして 大分県認知症ピアサポーター事業

大分・豊後大野市

戸上守さんは認知症と診断されて、はじめはほとんど引きこもり状態だったが、若年認知症の人が集うデイサービスと出会い、仕事をしたり、多くの仲間を得たことで前向きになれた。今では「認知症ピアサポーター」として、当事者たちの力になっている。



ここが
POINT!

大分県の「認知症希望大使」になった戸上さんの活動は、デイサービスや地域の人々の様々な取り組みを活性化している。地域に大きな変化を促すひとりの認知症当事者の熱い思いを応援したい。